

新型コロナウイルスの影響と課題③ テレワークの可能性

新型コロナウイルス感染症流行がビルメン企業にどのような影響を与えるのか——。シリーズの最終章は、いま求められる業務のICT化に注目し、本社・現場で行われている新しい働きかたにフォーカス。どれだけ無駄をカットし、効率的に仕事ができているのか。その実態に迫りながら、読者に参考となる情報を提示する。

そもそも、ICTとは“Information and Communication Technology”の略で、情報とコミュニケーションの技術といえる。コミュニケーションはビルメンテナン스에不可欠なものであり、それを通信技術をうまく活用して業務に活かすと捉えるべきである。なぜなら、“ウィズコロナ、”という時代に突入し、われわれの生活スタイルはもちろん、働き方も変わりつつあるからだ。

今年になって耳にする機会が増えた「テレワーク」は、「tele = 離れたところ」「work = 働く」を併せた造語である。総務省は、「ICTを利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」と定義づけ、主に3つの形態に分けている。

- ①在宅勤務……その名の通り、家で仕事をする。
- ②モバイルワーク……顧客先や移動中に、パソコンや携帯電話を使う働きかた。
- ③サテライトオフィス勤務……勤務先以外のオフィススペースでパソコン

などを利用した働きかた。
単にテレワークと言ってもさまざまなかたがあり、エッセンシャルワーカー（社会的に必要不可欠な労働者）であるクリーンクルーの場合は、業務の一部を②のモバイルワークに切り換えられるかもしれない。今回、手軽に取り組めるICT化に焦点を当てた。また、ビルメンテナンส์ITコンサルタントである稲垣太一氏に協力・監修いただき、その第一歩、まずできることを紹介する。



ビルメンテナンส์ITコンサルタント・稲垣太一

ももとは、一年で左遷されるほどダメな営業でした。あらゆる現場で作業をして、勉強して、ビルメンテナンส์会社では社長室経営企画部長まで経験できました。その経験からノウハウを体系化して世界へ誇る業界を作りたく現在はビルメンテナンส์専門のITコンサルタントとして、Youtube「ビルメンITチャンネル」(QR参照)でも情報を発信しています。良かったら視聴、登録お願いします。
仕事の依頼は inagaki@thick-one.co.jp まで

